

# 高齢者の万引犯罪の実態と 小売業の対応策

特定非営利活動法人全国万引犯罪防止機構  
理事・事務局長 福井 昂

現在、特定非営利活動法人全国万引犯罪防止機構（万防機構）では、今回のテーマである「高齢者の万引犯罪の調査研究」と「集団窃盗に関する調査研究」、及び「防犯画像に関する調査研究」といづれも喫緊の課題である3つのテーマの調査研究委員会を設置して推進しているが、今回は高齢者の万引犯罪について考える。

## 高齢者の万引犯罪の実態

平成24年の警察庁のデータによると、万引犯罪の中で65歳以上の高齢者の割合が青少年を上回ったという事実に対して、各方面でその対応策が検討されている。

警視庁の平成25年度の万引犯罪の被疑者2,367人のデータによると、次のようなデータが示された。

1人住まい：49.4%

再犯：58.3%

被害品：食料品60.4%

平均単価：1,000円以下が67.8%

支払能力有：77%

万防機構の第9回全国万引被害実態調査に於いて、高齢者の比率が高いのは百貨店47.7%、スーパー42.3%、ホームセンター・カー用品42.0%と回答している。代表的な小売業をヒヤリングした結果によると、

- ・単価3,000円以下は警察に届けていないという事実もある。
- ・特に、高齢者に対しての対策をしているという小売業は少ないということも解かった。
- ・高齢者は店にとってはお客さまである場合が多いの

で、特に気を使う。

- ・再犯を繰り返す高齢者が多いということもある。
- ・あらかじめ万引する商品を決めており、その商品だけを万引する特徴もある。
- ・病的窃盗者や認知症等病気ををお持ちの方に対する対応にも苦慮している。
- ・高齢者は対応を間違えるとクレーマーになるケースがあり、従業員には補足をさせない。
- ・誤認が一番怖いので、店の従業員には補足させない。
- ・お店のエリアの警察署と常に情報を交換し連携を取っている。

病的窃盗者等の刑事事件を担当している弁護士の報告によると、

- ・万引(窃盗)は極めて再犯率が高い。
- ・常習万引者や高齢万引者をかかえる家族の負担が極めて高い。

報道関係の取り扱いは、

- ・日本が抱える高齢者が急増する現実に対する種々の報道がされている。
- ・万引犯罪に手を染める高齢者は半数近くが一人暮らしで孤立化している。
- ・立ち直り支援の事例が報道されている。

- ・外国メディアの取り扱いは、規範意識の極めて高い日本人が高齢になって、なぜ犯罪に走るのかということで取材をうける。
- ・小学生から万引防止の標語を募集してお店に張り出すと万引が減った。
- ・ある中学校の美術部の生徒が高齢者万引防止ポスターを作成し管轄の警察署に寄贈した。

【図表1】全刑法犯に占める万引の割合

